

競技規則改正箇所

区分	P			平成27年2月改定	平成29年4月1日改正		
				公認	<u>認定</u>		
1. エチケットとマナー	P2	(10)			日本TBG協会規格(日本規格)に追加 <u>前組との間隔を開けないようにプレーをしなければならない。</u>		
		(11)		常に、前をあげたり、後ろを詰まらせたりしないように心掛け、素振りは最小限にとどめる。(都規則)	日本規格(10)追加の為 削除		
2. 用具	P2・3	(1)	ボール	全長 105mm、直径 40mm、 <u>羽の直径65mm</u>	全長 105mm、直径 40mm、 <u>羽の直径73mm</u>		
		(2)	クラブ	<u>日本TBG協会公認クラブ</u> 、又は、一般ゴルフ用ウエッジクラブ1本のみを用いる。 クラブの改造は認められない。 <u>公認大会は、原則として日本TBG協会公認シールを貼ったクラブを使用する。</u>	<u>TBGクラブ</u> 、又は、一般ゴルフ用ウエッジクラブ1本のみを用いる。 クラブの改造は認められない。 <u>公認シール・・・削除</u>		
		(3)	ショットマット、ウインドストッパー	① ショットマットの厚みは一定で <u>2cm</u>	① ショットマットの厚みは一定で <u>2.5cm</u>		
3. コース	P4			公認常設コース	仮設コース	<u>常設コース</u>	仮設コース
		ホール数		9ホール又は18ホールを基準とする。	常設コースに準ずる。	9ホール又は18ホールを基準とする。	常設コースに準ずる。
		ホール距離		①パー3(ショートホール) <u>30m～45m未満</u> ②パー4(ミドルホール) <u>45m～70m未満</u> ③パー5(ロングホール) <u>70m～90m</u>	①パー2(ショートホール) <u>15m～30m</u> ②パー3(ミドルホール) <u>30m～50m</u> ③パー4(ロングホール) <u>50m～70m</u> ※常設コースと同じ設定で良い	①パー3(ショートホール) <u>40m未満</u> ②パー4(ミドルホール) <u>45m～70m未満</u> ③パー5(ロングホール) <u>70m～90m</u> ④ <u>40m～45mは主管に一任する。(都規則)</u>	<u>常設コースに準ずる。</u>
		パー総数		9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする。	<u>9ホールのパー総数は27とし、その内訳は、パー2が2ホール、パー3が5ホール、パー4が2ホールとする。</u>	9ホールのパー総数は36とし、その内訳は、パー3が2ホール、パー4が5ホール、パー5が2ホールとする。	<u>常設コースに準ずる。</u>
		面積		9ホールにつき約7,000㎡とする。	<u>9ホールにつき約5,000㎡とする。</u>	9ホールにつき約7,000㎡とする。	<u>常設コースに準ずる。</u>
		ティーインググラウンド		台地状(3m四方)もしくは、周りのフェアウエーと区画線、柵等ではっきり区別をし、ティーマークを設置する。	<u>3m四方を区画線又は柵等ではっきりと区別し、ティーマークを設置する。</u>	台地状(3m四方)もしくは、周りのフェアウエーと区画線、柵等ではっきり区別をし、ティーマークを設置する。	<u>常設コースに準ずる。</u>
				芝メータは6m以内とする	芝メータは4m以内とする	芝・メータ(都規則)	

競技規則改正箇所

区分	P		平成27年2月改定	平成29年4月1日改正
3. コース	P4		フェアウェイ たこぎる。溝はコース内に る。	たこぎる。溝はコース内に る。 <u>常設コースに進ずる。</u>
			境界線 コースは、溝の中に砂を入 れて区分するか煉瓦で区分す るか、ロープを用いて明確に 区分する。	コースは、ロープで区分する。 <u>常設コースに進ずる。 煉瓦・溝は用いない(都規則)</u>
			バンカー、ウ ォーターハザード 9ホールにつきいずれか2種 類以上設置することが望まし い。	9ホールにつきいずれか2種 類以上設置することが望まし い。 <u>常設コースに進ずる。</u>
			標識 危険防止のための注意書き 及び距離の表示等プレーに 必要な表示をする。	危険防止のための注意書き 及び距離の表示等プレーに 必要な表示をする。 <u>常設コースに進ずる。</u>
			公認指導者 9ホールにつき1名以上常駐	9ホールにつき1名以上常駐 <u>常設コースに進ずる。</u>
			主な用途 日本TBG協会公認大会、講 習会の開催	日本TBG協会認定大会、講 習会の開催 <u>常設コースに進ずる。</u>
4. 競技方法	P5	(2) 競技の種類	③ソーボールフォアサム 2人が組になり他の2人組と対抗する競技で、各サイドが1個 のボールを交互にプレーする。ティーショットは1ホール毎に 組んだプレーヤーと交替して打つ。又、ティーショットに限り、 全員で打ち、各組の良い方のボールを選び、その後は交互 にプレーする方法でも良い。	③2人組戦 2人一組になり競技する。各組が1個のボールを交互にプ レーする。ティーショットは1ホール毎に組んだプレーヤーと交 替して打つ。また、ティーショットに限り、全員で打ち、各組の 良いほうのボールを選び、その後は交互にプレーする方法で も良い。
5. 規則	P7	(3) 池	③ 池とOBの境界線が一緒の場合は、ボールの球部が触れ ていけば池に入ったことになる。 <u>池の両サイドをあけることが望ましい。</u>	③ 池とOBの境界線が一緒の場合は、ボールの球部が触れ ていけば池に入ったことになる。 <u>池の両サイドをコースロープより20cm以上空けることが望まし い。</u>
	P8	(4) アウト・オブ・バ ウンズ(OB)と ボールの処理	④ドッグレック コースが極端なドッグレックしているときは、コース状況を考 慮してローカルルールを定めて競技することが望ましい。例と しては、特設ティーを設けることを進めます。 ⑦ ニアレスポイントとは、球部がOBラインに接した場合で、 プレーにより球部がOBライン外になるときは、ホールに近 づくことなく、ショットマットをフェアウェイ内に置くことが出来 る。	④ドッグレック コースが極端なドッグレックしているときは、コース状況を考 慮してローカルルールを定めて競技することが望ましい。例と しては、特設ティーを設けることを進めます。 <u>特設ティーがある場合、OBは全て特設ティーから打つ。無 い場合はホールよりコンパス。</u> ⑦ニアレスポイントとは、球部がOBラインに接した場合で、プ レーにより球部がOBライン外になるときは、ホールに近づく ことなく、ショットマットを <u>元の位置に最も近い</u> フェアウェイ内に 置くことが出来る。
			④セカンドホールは、球部の真上から見てフープの上に球部 の一部分が重なっていればホールインとみなすが、ストローク	④セカンドホールは、球部の真上から見てフープに球部が接 していればホールインとみなすが、ストローク数に1打加える。

競技規則改正箇所

区分	P			平成27年2月改定	平成29年4月1日改正
5. 規則	P10	(7)	ホールイン	数に1打プラスとする。 セカンドホールの判定の処理 図の解説	削除
	P11	(10)	誤球と誤記	①誤球したプレーヤーは、1罰打でもとに戻って打たなければならない。ホールアウト(2打以上打っている場合)していなければ、誤球した地点(付近)に戻る、この場合誤球したプレーヤーも、誤球されたプレーヤーも誤球した地点(付近)に戻り、双方とも打った数に1罰打加えること。 ②誤球のままホールアウトした場合は、誤球したプレーヤー、誤球されたプレーヤーも打った数に2罰打し次のホールに進むことができる。 ③提出されたスコアの誤記は、プレーヤー本人のみ失格とする。	①誤球とはショットを行った時を言う。 ②誤球したプレーヤーは、誤球のままプレーをし、ホールアウト後に2罰打を加えること。但し誤球されたプレーヤーが気が付けば自分のボールで同伴競技者の了解を受けて、自分のボールがあった地点にボールを戻してプレーを続ける。(無罰打) ③誤球されたプレーヤーが誤りに気が付かないでそのままプレーを続けホールアウトした場合2罰打を加える。
		(11)	ティーショットの位置	②ティーショットの位置の誤りに気が付いた場合は、正規のティーショットの位置まで戻り打った数に1罰打してティーショットを行う。	②指定された場所以外の所からティーショットした場合は、練習球とみなし正規のティーの位置まで戻り1罰打とし、2打目よりティーショットを行う。(第1打のみ)
		(12)	ホールの間違い	定められたホール順にプレーをしない場合は失格とする。(そのパーティー全員)	定められたホール順にプレーをしない場合は失格とする。(ショットした本人のみ)
6. ターゲット・バードゴルフ競技規則による罰打・失格一覧表	P12		失格	1. 提出したスコアが間違っていたとき。(本人のみ) 2. 定められたホール順にプレーをしない場合。(そのパーティー全員)	1. 提出したスコアが間違っていたとき。(本人とアテストした者) 2. 定められたホール順にプレーをしない場合。(ティーショットした本人のみ)